



熱い思いが 作り上げた 50回目の 炎

50回目の炎が灯るとき

強

い秋風が吹く天候となった10月6日の祭り当日。強い風は夜になっても静まることはなく、三嶽寺に灯された炎は大きく揺らいでいました。午後7時、衣装をまとった僧兵たちが集うと、50回目の炎を一目見ようと集まった100人以上の見学者、カメラマン、報道関係者とともに祭りの熱は徐々に高まっていきました。三嶽寺住職の祈念がはじまり、僧兵一人ひとりに冠峰山三嶽寺の本尊、不動明王の力が込められると、その熱量はさらに増し、松明に炎を灯しはじめると、熱量は最高潮に達します。「ソイヤ」という僧兵たちの勢いある掛け声のもと、大きく燃える火炎みこしが持ち上がる。周囲からは歓声が沸き、目的地である御在所ロープウェイ会場に向けてゆっくりと動き出しました。